

# 調布 狛江 保護司会だより

NO.31

発行責任者  
調布狛江保護司会  
会長 高木 光



新会長のあじやう

調布・狛江地区保護司会  
会長 高木 光

本年四月十九日に開催されました調布・狛江地区総会に於いて会長に任命されて、早くも四ヶ月が経過致しました。当初は浅学非才の私に会長が務まるものか大変危惧致しましたが、今日迄無事に経過している事は、本当に地区の皆さんが温かく、見守り協力して下さいている事であり、心から感謝を申し上げます。

この間、更生保護女性会の総会を皮切りに、東保連、多摩連の会議等が連日の様に開催され、多忙な日々を過ごしました。改めて前会長をはじめ先人のご苦労がわかりました。地区行事としては、六月二日に都立農業高校神代農場に於ける社会参加活動が行われ、本年も多くの参加者のもとで爽り多い社会参加活動を行う事が出来ました。

七月の社会を明るくする運動につきましても、準備段階から、駅頭広報活動、そして調布・狛江各分区の実施大会も例年通り盛大に開催され、七月二十七日の味の素スタジアムに於いて大変暑い日でしたが、調布・狛江の中学生参加のもとに開催する事が出来ました。あらためてご協力いただいたFC東京をはじめ、皆様に厚く感謝を申し上げます。

私も昭和五十五年十二月に保護司に任命され、今日迄ただなんとなく、馬鹿を重ねて参りましたが、会長職を仰せつかりあらためて、保護司の務め、在り方について考えさせられております。過って犯罪や非行に走ってしまった人達に対し、如何にして更生の手助けをする事が出来るのか、保護観察を終了した人達の居場所の確保や、就労支援のために、多くの使命や、責任がある事を思うと、保護司として重圧を感じる事もありました。更生した時の喜びや、失敗した時の挫折感を味わう時、まだまだ頑張らなければと思えました。

これからも更生保護の仕事に努めて参りたい思っております。

近年保護司の確保の困難さが、表面化され、今や全国的な問題になっております。その中で、私達調布・狛江地区保護司会では、充足率百パーセントになっております。この事は地区会員一人ひとりが保護司の確保に理解をして、常時知り合い、仲間、友人等々に声を掛けて戴いております。その様な状況ですので、新任の保護司のフォローも大変上手く行われ、会員同志のコミュニケーションも良く取られており、和気藹々と活動を行っております。いつ迄もこの状況を守り会員皆様の一層のご協力をお願いして、地区の運営に努力して参る覚悟でございますのでよろしくお願い申し上げます。

### 調布・狛江地区保護司会 副会長あいさつ

副会長 鴨志田 守久

調布分区長も五年目となり皆様方には、日頃より大変お世話になり感謝いたします。

分区事業も順調に実施していますが変化も必要と考えています。

平成二十三年度から学校訪問を実施、先生方と担当保護司の意見交換をしています。

民生児童委員さんとの協議会も平成二十四年度から始まりました。理事だけではあるが、今後、連携も図れるのではないのでしょうか。

自主研修も処遇困難なケース、先輩の体験などテーマとして実施している。悩みを共有する事は、早期退任を防ぐ事につながると思っています。

社会資源の開拓や活用を考え犯罪や非行のない社会づくりに今後も努力したいと思います。

副会長 川合 章雄

本年四月十九日の調布・狛江地区保護司会総会において、高木光前副会長が地区会長に就任され、その後人として副会長に推され、私がこの大役をお引き受けすることになりました。

不肖者ではありますが、高木会長を始め役員、保護司皆様のご指導、ご協力を賜わり職責を果す所存でありますので何卒、宜しくお願い申し上げます。

さて、保護司会全体の大きな取り組みの事業として、「社会を明るくする運動」があり、七月を強化月間として、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動が展開されました。

また、最近の犯罪情勢を見ますと、初犯者がおおむね減少傾向にある中、再犯者の比率が上昇傾向にあるなど憂慮すべき状況が続いております。

当地区で実施した第六十三回「社会を明るくする運動」は、保護司会皆様のご協力で運動の主旨目的が達成され、大きな成果を上げることができました。

今後共、保護司会の活動が犯罪や非行のない「安心・安全な街づくり」に貢献できるように一層の努力と研鑽を重ね、尽力していきたいと考えておりますので皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶いたします。

### 調布分区自主研修(五月二十三日)

広報部 林田 堯瞬

今回の調布分区自主研修会は、白井貞治、目良勝子、門傳良男の三氏が受け持った実際の事例を伺い、その後、三グループに分かれて三氏の事例や自身のケースなどを話し合うものでした。

白井さんのケースは、学校でトラブルをおこし転校が続く中、励ましたり時には怒ったり、自分の子供のように接する事で、再犯や母親の死を乗り越え、仕事で独立するまでになった話でした。

目良さん、門傳さんのケースは、薬物依存や精神疾患などの違いがありますが、金銭感覚の欠如という事が共通しておりました。

私が以前受け持った対象者も、金銭感覚が全く無かった事から、行き先ノートにレシートを貼るなどの対処法を伺い勉強になりました。また皆さんの話を伺える機会を望みます。



保護司アジ研協力会  
フィリピン保護司との国際交流会

谷戸 一郎

平成二十五年一月二十七日バツグ市法務合同庁舎内で、司法省保護局長を四人の挨拶、アジ研協力会会長榮隆男氏、宇都宮保護観察所横地氏二人の挨拶。

保護司の体験発表。日本から保護司制度が入り、犯罪者と向きあう事になった。日本の優れた保護司制度を学ぶ機会を与えて下さった神に感謝したいと話した。

#### 日本の保護司の発表

安藤 隆文保護司(大津保護観察所)

保護観察対象者と面接状況を話した。なぜ非行に走り犯行を起こしたのか。どの様な事情や心の変化があったのか。又、交友関係、家庭内での葛藤があったのかと話して大きな拍手を頂いた。

四條 とも子保護司(福島保護観察所)

二〇一一年三月十一日の震災の時に取った対応を話した。東日本は大きな震災に見舞われた。福島の一部の地域は、原発の爆発により住む家が無く、遠くへ避難し一家ばらばらの生活になった。この様な状況でも対象者の安否が心配になり家に行き、安全を確認したと千五百字の英文で発表であった。

比国方々は四條保護司の手を取り貴方は多くの人に神の恵みを与えたと話されていました。

志村 保護司(埼玉保護観察所)

日本の保護司は通常どのように対象者に接しているか。地元の中学校でボランティア活動している中で多くの人達の協力を得て少年の気持ちを抑え更生の道へと進むと発表。

清水 峰子保護司(仙台保護観察所)

二十三年三月十一日震災の時にどのような対応したか。津波の跡の写真をパワーポイントで見てもらう。又、マグニチュード九、震度七の大揺れに伴い、



### 神代農場社会参加活動

#### 神代農場社会参加活動に参加して

大林 孝男

六月二日都立農業高校の神代農場において社会参加活動が行われました。今回は、責任者ということで、数日前から雨予想の天気予報の為ヒヤヒヤでした。しかし、当日は、皆様の願いが通じくもり空から薄日も差す絶好の日よりでした。

今年も、参加した対象者は、一名でしたが、二ジマス釣り、調理、そして愛情のスパイスのきいたカツカレーの昼食後には、竹垣づくり、おやつづくりと全ての作業にかかわってくれたこと、そして楽しんで活動していた様子がとても印象的でした。皆様方の積極的な活動により、予定していた時間より大分早く終了となりました。

今年も天気に恵まれ、ご参加いただいた皆様方のご協力を得て、無事終了出来ましたこと、誌面をお借りして感謝申し上げます。



#### 深遠の神代農場社会活動に参加して

中野 建

保護司として、初めて参加させていただきました。新人なので先輩より早く活動に入るべく、集合時間の四十五分前に到着しましたが、すでによくの方々がおられました。調布市長、狛江市長の御挨拶の中で「保護司晴れ」という御言葉ありました。天候だけでなく、心身共に晴れ々という意味合いも兼ねていられた様に思います。帰宅後研修で配布された本を読み直した所、「対象者に対して見守りが大切であるが、社会のルールに従い、周囲の人に対して、自分を合わせる事を求められるが、その時に自分を保ち、主張をしっかりとすることが自立である」と書いてありました。諸先輩の指導を賜わり、役割を果たしていきたいと思えます。保護観察所の方々、更生保護女性会、BBS、桐友会、調布警察、多くの方々に支えられ、私自身保護司晴れでした。

大津波が発生、沿岸部は破壊状態。千年に一度と言われた時の状況を丁寧話して、比国保護司の人達は涙を流し聞き入った。比国保護司会会長は震災でも対象者と向きあつたとは、自分より対象者の事を心配している姿が言葉に出せないと話した。また日本保護司の方々に難しい対象者の問題をすらりと進めていく姿は比国保護司が勉強する所であるとも話した。

見学地はイワヒゲ開放刑務所（I P P F）日本にない刑務所である。

概要：イワヒゲ刑務所、受刑者が山々を開墾し田畑を作り、稲作、果物栽培、

刑務所敷地四万七千ヘクタール。設立一九〇四年。

収容人数三千人。結婚している人は家族と住んでも良い。職員は三三七名。職員の家族も一緒に住んでいる。

教育：小中学校があり職員の子供と収容者も一緒に教育目的

一九〇四年に米国人が設立した。

一九〇六年に受刑者達は厳しさに耐えきれず暴動を起こした処遇について考えを変え現在の開放刑務所にした。

モンテンパ刑務所の様な混雑解消悪風感染症解消、食料事情解消刑務所に入所するには家族と一緒に住む事が許可される。

軽い犯罪の人達が入所している広い田んぼで二十〜三十人単位の人達で農作業している。犯罪により軽い・中程度・重い人と三ランク別にシャツの色で分けられている。開放刑務所は周りに塀も柵も無く、一つの山村になっている状態である。

以上一部を報告します。

アジ研事務局長志賀ツヤ子（神奈川）より



# 「青少年非行防止パネル展」アンケート集計

実施日 平成二十五年七月一日(月)

	大麻・覚せい剤などを吸引したりしている人を		大麻についてどう考えていますか			脱法ハーブを使っている人を			保護司について?			パネル展を見て薬物のこわさがわかりましたか				
	知っている	知らない	興味がある	少し興味がある	興味がない	知っている	知らない	脱法ハーブについてどう考えていますか	興味がある	少し興味がある	興味がない	知っていた	なんとなく知っていた	知らなかった	わかった	少しわかった
中学生46人	2	44	1	5	40	3	43	1	5	40	4	11	31	14	13	0
高校生64人	2	62	0	3	61	4	60	0	1	63	2	7	57	13	4	0
小学生17人 大学生10人 学生ではない7人	2	32	0	1	33	5	29	1	2	31	3	4	26	4	6	1

中学生の主な感想 … 脱法ハーブはこわい ・ 脱法ハーブはテレビで騒いでいて興味がある ・ 薬物はこわい  
 ・ 普通の薬と見分けがつかないので気を付けなければ

大学生・社会人の主な感想 … 肺をやられたのが生々しく心に残った



## 中学生意見発表会

日時 七月二十一日(日)  
 場所 調布市文化会館  
 たづくり十二階大会議場

- 「コミュニケーション」  
 ～人の心と心をつなぐかけ橋～  
 神代中学校 三年 川山 夏芽
- 周りの人への感謝  
 明治大学附属明治中学校 三年 八木 遼真  
 「ありがとう」を言葉に  
 第五中学校 三年 三好 正恵
- 「自由とは何か」を考えよう  
 桐朋女子中学校 三年 畠山 佳奈  
 心をうるおす君の声  
 第八中学校 三年 竹岡 桃花
- いじめ減少を目指すために  
 調布中学校 三年 根本 享典
- 社会と私  
 第三中学校 二年 鹿島 旭恵
- 言葉とコミュニケーション  
 晃華学園中学校 三年 牛山 久乃
- 未来を奏でる  
 第四中学校 三年 石井 百花
- 愛と夢  
 第七中学校 三年 石橋 元邦
- 計画目標に向けて  
 第六中学校 三年 元木 美友

第63回

# 社会を明るくする運動



## 推進大会と コンサート



日時 七月十五日(月)  
場所 狛江市民ホール  
(エコルマホール)

### 中学生啓発標語優秀作品

一人じやない 周りのことも 考えよう!

第一中学校 一年 岩崎 千夏

あいさつで 笑顔広がる 地域の輪

第一中学校 三年 和田 桃佳

甘い言葉 乗ってはいけない 悪の道

第二中学校 一年 土井 菜々子

一言かけて 気にかけて

地域とつながる 大きな和

第三中学校 二年 河野 未有

思いやり みんながつながる 心の輪

第四中学校 二年 関 璃生

## 総務部

鈴木 宗貴

平成十六年二月に保護司の委嘱を受け、十八年度より総務部員として、見識豊かな諸先輩のもとで総務の役割が確実に、より解りやすく繋がれてきたことを、目の当たりにしてきました。

まだまだ未熟な身であり、歴代総務部長の顔ぶれを見ますと、あらためて身の引き締まる思いですが、実績ある多彩な部員の皆様、優秀な事務局の皆様にお支えをいただき、保護司会運営における事務・担当事業をしっかりと担ってまいりますので、よろしくお願い致します。

また、引き続き強力雇用主会の担当を務めるにあたり、雇用主の拡大とともに、就労支援に更に活かされる会となるよう、より良い道筋へ繋げていければと思います。

## 地域活動部

小室 静了

新部長になって二ヶ月、地域活動部の二大活動のひとつ、神代農場の社会参加活動が、六月二日に実施されました。

部会や様々な事前の打合せが、次々と終了していくなか、何とか準備が間に合ったという感じで当日を迎える事ができました。

都立農業高校をはじめ、関係各位の御協力により、無事終了することが出来、ホッと胸を撫で下ろすと共に感謝の気持ちでした。対象者の明るく和やかな表情が見られ嬉しい限りです。

今後とも沢山の方々に参加、協力をして頂きまして、より良い社会参加活動に発展していける様に務めたいと思います。

皆様の御協力を宜しくお願い致します。

## 新部長挨拶

## 研修部

小川 保

研修部長を務めさせて頂きます小川保です。

まだまだ若輩者ではございますが、謙虚な気持ちを忘れずに部員の皆様方と相談をさせて頂きながら、御指導を頂き、精一杯頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。さて、本年度の研修ですが、地域別定例研修は従来通り皆様方が円滑に研修を受講できる様に準備を整えます。

管外研修・自主研修は例年の研修を基本とし、管外研修は一日の研修(甲府刑務所への視察)、自主研修は協力雇用主会と連携をして、就労問題を考えていきたいと思っております。又研修内容等にご意見等がございましたら、ぜひお声掛け頂きます様お願い致します。

## 広報部

白川 精次

このたび広報部長を仰せつかりました。保護司を拝命してから地域活動部として活動して参りましたので広報については右も左もわからずプレッシャーを感じるとともに、部長の責任を実感しています。それでも諸先輩方に御指導頂き、また部員の皆様に御協力をお願いしながら頑張りたいと思います。

日々の保護司会の活動に、常にアンテナを張り、まだまだ力不足であることは十分に承知しています。自分なりに責務を果たしてゆきたいと思っております。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。

## 退任

## 退任のあいさつ

谷戸 一郎

保護司の拝命を受けてから、三十年余り。長かったようにも、短いようにも思った。今振り返ると多くの対象者と関わって来た。一人ひとりの顔が浮かんでくる。更生してくれる様、足りない自分が、保護観察官を始め、先輩、仲間の指導に支えられ歩んで来た。感謝申し上げます。

保護司会には、全国でも例を見ない素晴らしい活動がある。中学生のサッカー教室では、プロの指導者が直接教える。深大寺の仏具研ぎ、清掃対象者の中には、仏具が光ってくると自分も清められる等。保護司を退任、寂しい思いです。良友に恵まれ保護活動をさせて頂きました。誠に有りがとうございます。

## 退任の御挨拶

春日原 秀隆

振り返ってみれば短く、対象者の更生に役立つ仕事が出来たのかと反省ばかりの十四年間でした。

地域での繋がりも活動も全くなく、無理を願ってさせて頂いたいただいた保護司でしたが、歴代の会長、役員の方々を始め会員の方々に温かく受け入れて頂きましたこと、心から感謝いたします。また保護司会活動を通じて親交を深めさせて頂いたこと、何物にも代えがたい財産と思っております。

皆様のお陰で無事任期を全う出来たことに感謝し、併せて活気にあふれた、風通しの良い調布・狛江地区保護司会の益々のご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を祈念して御挨拶とさせて頂きます。

### 少年の保護観察について

地域別定例研修第一期  
六月十四日 午後二時～午後四時  
総合福祉センター  
難波観察官

研修部 酒井 淳

少年・少女は一人ひとり友人関係や修学・就労状況が異なるが、一般的には修学・就労が継続しているほうが更生に資する傾向がみられ、家族状況も少年に対して大きな影響を与える傾向がある。この点からも面接で家族との関係を把握するとともに、家族と更生に対する連携をとることが大切との指摘をいただいた。

事例検討では難波主任官が「仮説の立て方」というキーワードを提示し、その背景を想像しつつ行うようにアドバイスされた。

今日よく耳にする想像力の欠如が、人間相互の関係性を壊す要因として語られるが、その想像の根底には相手を心配する前提がなければならぬこととは言うまでもない。ただ仮説を立てるだけであれば、一方的な予断となってしまう可能性があることは注意しなければならぬと感じた。



### 狛江分区茨城就業センター研修

小町 新一

講師 渡邊真二氏



六月二十八日難波主任官同行のもと研修が行われました。センターは平成二十一年開所で、国の管理のもと非常にきれいな

施設でした。入所中は保護観察官が二十四時間体制で運営し、保護観察期間六ヶ月農業訓練をし就業を目指しています。訓練には農業法人や個人農家が協力しているとの事で、私も農家としてひとかたならぬ苦労があるのではと察します。退所後の就農者は四割、その半数は後にやめているようで、いかに定職するのが難しいかがうかがわれます。しかし、中には地域農家、自治体とコンタクトを取り、農地や空き家を借り自立している例もあるようです。この研修を通して、対象者が自立し定職に就くという事は本人のやる気だけでなく、周りの人々の協力が無くしてはできないのだと改めて感じました。



### 桐友会だより

中学生サッカー教室

調布・狛江地区桐友会

会長 林 貞夫

七月二十七日、久しぶりにサッカー教室に参加して懐かしい思い出が甦りました。三十度を超える猛暑のなかFC東京の指導のもとに、元気にプレーする百四十名余りの選手達と、世話役の保護司会や関係団体の皆様が、一体となつての活動は素晴らしいものでした。

平成十三年十二月、第一回サッカー教室は東京スタジアム(当時)でスタートしましたが、関係団体との調整や、台風による延期等で難渋した事を想い、その後の充実に感慨深いものがあります。昨年八月、計らずも桐友会々長に推薦されました。運営に当っては、会員の協力を頂きながら、地区保護司との連携、会員増強と親睦、更に健康長寿を願っております。

### 更生保護女性会だより

更女らしく

調布・狛江地区更生保護女性会

会長 橋本 郁子

四月、総会を終え、新役員と新部会体制にて、動き始めました。保護司会との活動では「社会参加活動」での食事作り担当「社会を明るくする運動」等に参加いたしました。又、各部会にて「ミニ集会」「バス研修」「施設訪問」等を計画進行中です。お知らせが、届きましたら是非ご参加下さい。

東京更生保護女性連盟では、都内二十三区を五ブロックに、都下十一地区を六・七ブロックに分け、

調布狛江は、第七ブロック、この中に七地区があり一年ごとに担当持ちまわりにて、活動を進めています。例年の活動に加え、今年度は、この担当になりました。初めてづくしの面々にて、各自出来る事を一生懸命のスタンスで、皆さんの力を合わせ進み出したところです。

今後、更生保護女性会活動にご理解とご協力を心よりお願いいたします。

**BBS会だより**

調布・狛江地区BBS会

会長 北谷 慎太郎

六月二日、都立農業高校(神代農場)における社会参加活動に、当地区会役員の会長、副会長、会計の三名で参加致しました。今回参加した対象者は少なかったため、その分、ゆっくりと語りうることができ、私どもとしても大変有意義な時間を共有させていただくことができました。

さて、今年度の当地区会の大目標は、地区会ホームページの開設です。本プロジェクトが縁となり、ITに造詣の深い理系学生会員が仲間に加わるなど、現在万全の体制で臨んでおります。近々皆さまにもよいご報告ができればと存じます。

今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

**新任保護司の紹介**

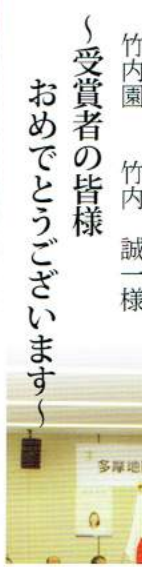


平成二十五年五月委嘱  
中野 建

第三十二回  
多摩地区更生保護事業関係者顕彰式典

平成二十五年七月五日  
多摩地区保護司会連絡協議会会長感謝状

- 小町 新一様 嶋田 弘子様
- 豊島 秀臣様 川又 剛様
- 保護司会事務担当者
- 小坂 芳美様 大脇 瑤子様
- 協力雇用主
- 竹内園 竹内 誠一様



～受賞者の皆様  
おめでとうございませす～

保護司会の今後の予定

- 十月 十日 調布分区小学校生活指導主任との懇談会
- 十月 十八日 調布分区自主研修
- 十月 二十四日 保護観察所第Ⅱ期地域別研修
- 十一月 五日 地区保護司会自主研修
- 十一月 七日 調布分区中学校と保護観察所・保護司との連絡協議会
- 十一月 十四日 第七ブロック保護司組織運営連絡協議会
- 十一月 二十四日 深大寺社会参加活動
- 十一月 二十六日 更生保護事業関係者顕彰式典
- 十二月 八日 調布分区福祉まつりバザー
- 一月 十七日 地区保護司会新年会
- 二月 十九日 保護観察所第Ⅲ期地域別研修
- 四月 十一日 調布分区総会
- 四月 未 狛江分区総会
- 四月 十八日 地区保護司会総会

**あとがき**

昭和五十四年九月に初任して、いつのまにか三十余年の月日が流れた。

広報部会を始め総務・研修・地域部会と四部会に係ってきました。

初任のころは先輩に先生と呼ばれた。主任官の指導連絡をとりながら、多くの対象者との面接、更生に努力。対象者の立場になり、いつしょに悩み普通の社会生活が行われる事を祈った。

面接、対象者報告書は必ず、決められた日までに提出する保護司として当然なことなのです。

調布・狛江地区保護司会会報はカラー印刷はどこ「保護司だより」より早かったと思います。

又、地区では、三大イベントも長きにわたり実行されていることも保護司会の特徴です。

当保護司会では、新人保護司の方も早々とお役を担当していることが励みとなり百パーセントの保護司が活躍されている。

三十一号会報だよりに皆様から原稿をお寄せ下さり広報部員、心より感謝申し上げます。

谷戸 一郎

**広報(編集)部員**

部長 白川精次	愛甲悦子
副部長 柿沢正夫	伊藤知弘
副部長 濱中佳朗	西山節子
書記 嶋田弘子	長谷瑞信
書記 嶋田弘子	林田亮瞬
書記 峯岸伴則	馬部久夫
書記 桑田和紘	真山勇一
会計 佐藤亜古	谷戸一郎